

早稲田大学 人間科学学術院 人間科学会 諸費用補助成果報告書 (Web 公開用)

申請者 (ふりがな)	金賀 駿 (かねが しゅん)
所属・資格 (※学生は課程・学年を記載。卒業生・修了生は卒業・修了年月も記載)	人間科学研究科 修士課程 1年
発表年月 または事業開催年月	2022年 3月
発表学会・大会 または事業名・開催場所	第23回日本リハビリテーション連携科学学会大会 (オンライン)
発表者 (※学会発表の場合のみ記載、共同発表者の氏名も記載すること)	金賀 駿, 村岡 慶裕
発表題目 (※学会発表の場合のみ記載)	療法士の測定効率化を目的とした足関節痙性測定装置のスタンドアローン化
発表の概要と成果 (抄録を公開している URL がある場合、「概要・成果」を記載した上で、URL を末尾に記してください。また、抄録 PDF は別途ご提出ください。なお、抄録 PDF は Web 上には公開されません。)	
<p>要旨</p> <p>【目的】痙縮の定量的評価法として開発された足関節痙性測定装置 (以下、E-SAM) において、工学的な立場から療法士の操作の手間を削減するため、スタンドアローン化を図った。【方法】E-SAM 本体と接続し、手元での計測・表示・保存および PC との無線通信を可能とする装置を開発した。従来との主な相違点は PC での操作が不要となり、小型タッチディスプレイによる手元での操作や表示が可能となった点である。また、従来 of E-SAM との測定値の同一性を検証するため、各装置で計測した同一被験者の角度・トルクデータを比較した。被験者は演者である健常成人 1 名とした。【結果】従来 of E-SAM と計測データを比較した結果、各グラフはほぼ一致していた。【結論】従来 of E-SAM との測定値の同一性を維持しつつ、手元操作が可能となったことにより、操作の手間が削減され、療法士による測定操作の効率化が図られた。</p>	

※無断転載禁止